

**0-104 異型腺腫様過形成不死化細胞株を用いた発癌
初期に発現する遺伝子群のcDNA microarray 法によ
る網羅的解析(肺癌と分子生物学1, 第47回日本肺癌
学会総会)**

著者	穴見 洋一, 石山 直史, 大窪 千草, 加野 准子, 飯 島 達夫, 野口 雅之
雑誌名	肺癌
巻	46
号	5
ページ	512
発行年	2006-11-05
権利	特定非営利活動法人日本肺癌学会
URL	http://hdl.handle.net/2241/00128136

O-104

異型腺腫様過形成不死化細胞株を用いた発癌初期に発現する遺伝子群の cDNA microarray 法による網羅的解析

穴見 洋一・石山 直史・大窪 千草・加野 准子
飯島 達夫・野口 雅之

筑波大学大学院人間総合科学研究科診断病理

【目的】我々は、肺腺がんの前がん病変と考えられる異型腺腫様過形成(AAH)の腫瘍細胞と同一患者から採取した正常気管支上皮細胞のそれぞれに SV40 large T 抗原を pRSV-Tag ベクターを用いて遺伝子移入し、不死化された AAH 細胞株(PL16T)と正常気管支上皮細胞株(PL16B)を確立している。今回この不死化細胞株を用いて肺腺癌発癌初期に高発現を示す遺伝子群を cDNA microarray 法により網羅的に検出し、その機能・発現意義について解析する【材料・方法】PL16T と PL16B のそれぞれから total-RNA を抽出し cDNA を合成後、cDNA microarray (CodeLink™)を用いて、PL16B に比して PL16T に高発現している遺伝子を網羅的に検出した。10 倍以上に高発現しているものについては real-time PCR にて発現量を定量的に比較した。【結果】PL16T に PL16B に比して高発現している遺伝子は 124 倍を最高として 2611 個であり、10 倍以上に高発現していたものは 9 個であった。このうち real-time PCR にて 10 倍以上の発現差が確認できたものは sushi domain containing 2 (SUSD2) mRNA のみであった。【考察】SUSD2 遺伝子は 22q11-q12 に存在し、その機能は未知であるが、タンパク結合 module として機能しているのではないかと考えられる sushi motif の発現に関与している可能性がある。現在、切除肺腺癌組織中での発現を解析中であり、肺腺がん発生への SUSD2 遺伝子の関与について解析して報告する。